

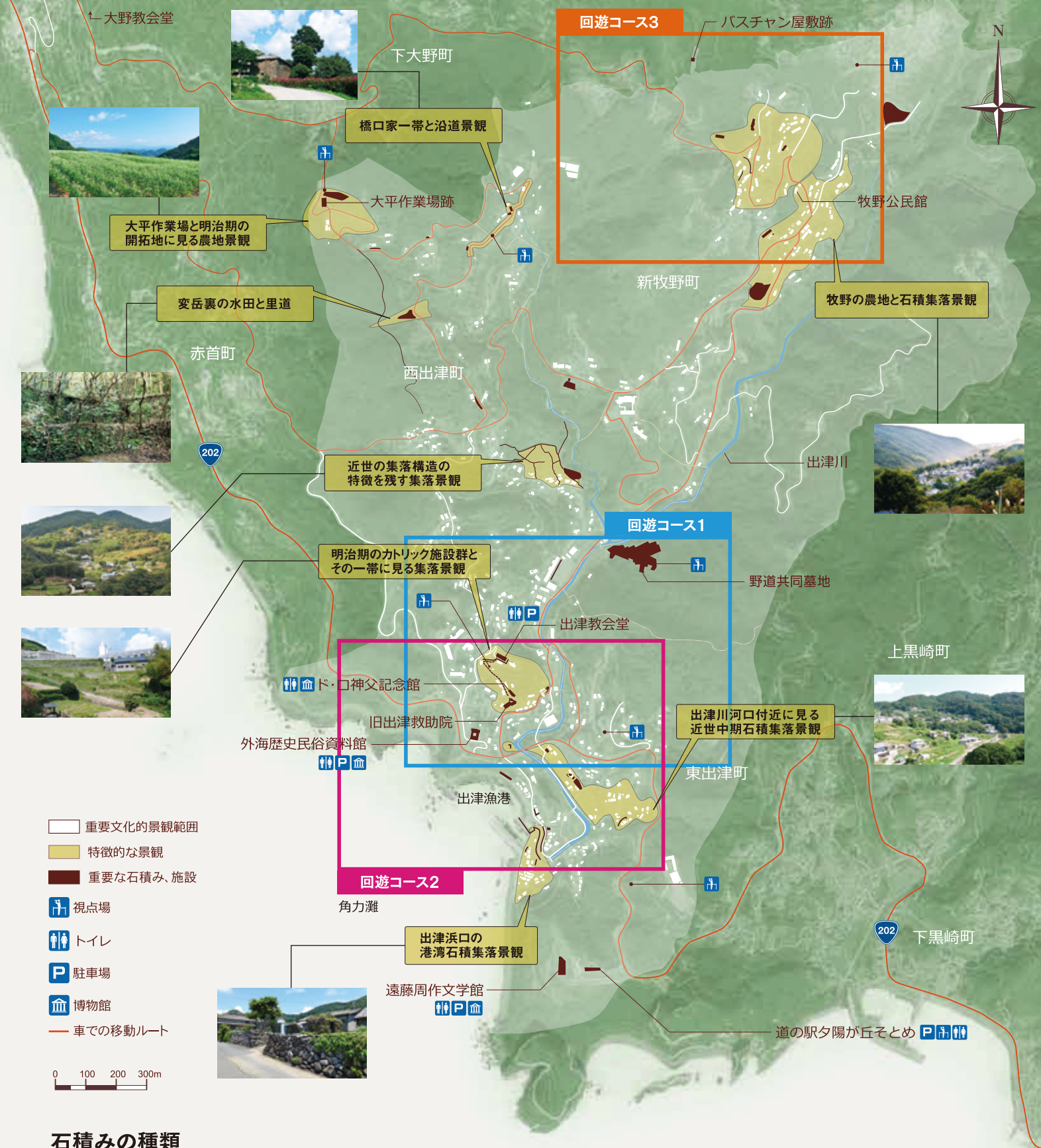
Landscape with Terraces Retained by Stonework of

SOTOME

回遊コース2

出津川河口の港湾石積みと
江戸時代からの石積み

重要文化的景観
ながさきしそとめ
じゅうようふんかてきけいかん
長崎市外海の
石積集落景観



- 重要文化的景観範囲
- 特徴的な景観
- 重要な石積み、施設
- 視点場
- トイレ
- 駐車場
- 博物館
- 車での移動ルート

石積みの種類

石垣 ＜用途＞：宅地や段畑の造成 築石面 断面 特徴：片面のみが石積み面として表出 (背面土の土留め)	石築地 ＜用途＞：防波壁・防波堤 築石面 断面 特徴：底部の幅が上部の幅より広い 両面に勾配を有する	石堀 ＜用途＞：防風・防潮壁・宅地の境界壁 築石面 断面 特徴：垂直に自立した石積み 空積・練積の両方が存在	石壁 ＜用途＞：ネリベイ建物の内外壁 築石面 断面 特徴：垂直に自立した石積み 練積のみ
---	--	--	--

【アクセス】

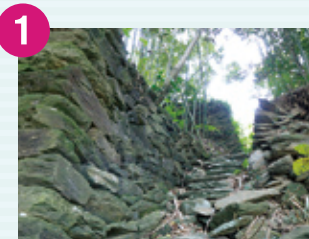
■バス（約60分）長崎駅前バス停から【長崎バス「桜の里ターミナル（板の浦連絡便）行き」乗車 ～ 桜の里ターミナルバス停から【さいかい交通「板の浦」行き】に乗換え～「出津文化村」バス停下車
■車・バイク（約50分）長崎駅から国道 206 号線、202 号線

長崎市外海の石積集落景観

検索

出津川河口の港湾石積みと江戸時代からの石積み

消費カロリー 約180Kcal モデルコース(徒歩／60分 約2.3km) ※駐車場(外海歴史民俗資料館、出津集落駐車場)から歩いて移動をお願いします。



さんごのたに
三五ノ谷の水田石垣
水田跡の石垣。石階段を中心に左右交互に石垣が築かれている。1862(文久2)年の絵図には「タ」と記されている。



いしべい
石築地と石堀
上面に1m以上の大きさの結晶片岩を用いた「はね出し」が特徴的な石築地が見られる。隣家との境に石堀もあり、石堀と石築地を同時に見ることができる。



出津川の護岸石積み
1885(明治18)年にド・ロ神父が私財を投じ護岸の整備を開始。船の出入り口を整備し防波堤を築くため大岩を除去する工事が行われた。その後1934(昭和9)年に現在の護岸石積みが築かれた。



石堀
大村藩の役人屋敷跡であるといわれ、屋敷の四方を取り囲むように石堀が築かれている。石堀とは、垂直に自立的な石積みの構造で、屋敷の界壁をはじめとして海岸部の防風・防潮壁としての役割をもつ。当家の石堀は基本的に空積みで、材料は結晶片岩が主体で築かれている。



ネリベイ建物と宅地石垣、段畑
宅地は斜面に位置し、石垣の上に3棟の建物が建てられている。母屋以外はネリベイ建物である。段畑の石垣は農作業の中で作られてきたと考えられ、高さは1～2m。建物・石垣・段畑といった特徴的な石積み景観を一度に見ることができる。

見学する際は、私有地には立ち入らないなど、マナーを守り、所有者や近隣に住んでいる人へ迷惑をかけないようにお願いします。



いしつじ さいはしょう
出津浜の石築地・碎波床
石築地とは背中合わせに両面に石垣を築いた構造の石積みで、防波堤として海際につくられることが多い。この石築地は1862(文久2)年の絵図にも描かれている。



はと
出津漁港の波止
1885(明治18)年に工事を開始した防波堤。1934(昭和9)年には生月島の石工職人が海岸部の塊石(波の力で角が取れた丸みを帯びた石の塊)を用い、下部に玄武岩、上部に結晶片岩を積み上げ完成させた。波のあたる先端部は波よけのため丸く整えられている。



出津浜の防風壁
丸い玄武岩で作られた、厚み約2mの防風壁。すぐ後の建物と近い高さに作られ、壁と建物が一体となり防風性を高めている。



ネリベイ建物
土地を開墾する時に地中から出てくる結晶片岩と「浜石」と呼ばれる丸い玄武岩を伝統的な赤土を主体とした目地材を用いて積みあげられたネリベイ建物。



たかひら
高平の屋敷石垣
現在では家屋が失われ畑地に転用されているが、1862(文久2)年の絵図にも描かれている。高さ約4mの屋敷地の石垣。

